段階別による校友会改革に関する件（案）

今回の一連の事件を受けて，日本大学校友会は，早急に特定の者の専横を許さない多様な意見が反映される健全な管理運営体制を整備する必要がある。

また，本会の財政は，正会員からの収入のみで，十分に賄うことができず準会員の会費収入に大きく依存している状況である。

今回，「校友会会則の検証と見直し」，「役員選出方法等の検証と見直し」及び「会費等の検証と見直し」を行い，校友会の信頼回復を図るとともに，「日本大学コミュニティ」の醸成と強化に向けた施策を提言すべく改革会議を設置し検討を重ねているが，短期間で改革会議としての改革案を集約するに至っておらず，意見を集約するまでに相当の時間を要するため，一遍に改革を行うのではなく，段階を踏んで一歩ずつ改革を行うべきと判断し，以下の段階別の改革案を提案する。

①第１フェーズ

現在の校友会の役員については，一連の事件を引き起こした当事者である元理事長が校友会長時に選出されているため，新たに新体制による校友会組織を構築する必要がある。

しかしながら，現役員の任期については，令和５年７月に開催予定の役員総会までとなっていることから，任期途中で全役員から辞任届を提出させ，新たな役員を選出させることは困難である。

そこで，第１フェーズとして，年度内に副会長以上の役員についてのみ再選出を行う。

具体的には，これまで校友会通常業務の範囲に限り，これを決定し執行することができる会議である常任会を廃止し，それに代わる会議を会長・副会長会とする。そのために，会則を一部改正するとともに，副会長選出規程及び会長選考委員会の規定を改正することを提言する。

②第２フェーズ

役員の改選時期である令和５年７月の役員総会において，特定の者の専横を許さない多様な意見が反映される健全な管理運営体制とすべく，役員選出方法も含め校友会会則の大幅な改正を行い，あらたな選出方法により全役員を選出し，新体制を構築する。

なお，令和５年７月までに改革会議として最終答申を作成し，将来に向けた「校友会費の在り方」及び，「日本大学コミュニティ」の醸成と強化に向けた施策を提言するものとする。

以　　上